

2. まちの再建

1) まちの復興イメージ (問 30)

まちの復興状況に対して、市民一人ひとりがどのようなイメージを持っているかを調べるために、「まちの復旧・復興状況」「地域の夜の明るさ」について、2001年、2003年調査に引き続き、2005年調査でも同様の項目を尋ねた。

①まちの復興速度感

- ・時間の経過とともに、まちの復興が着実に進んでいると感じている人の割合が増えている。

まちの復興速度をどのように感じているかについて示した(図1-16)。

図1は、左から順に「かなり速い」「やや速い」「ふつう」「やや遅い」「かなり遅い」「その他」である。

「かなり速い」から「ふつう」までの割合は、時間の経過とともに漸増しており、この10年でまちの復興が着実に進んできたことがうかがわれる。

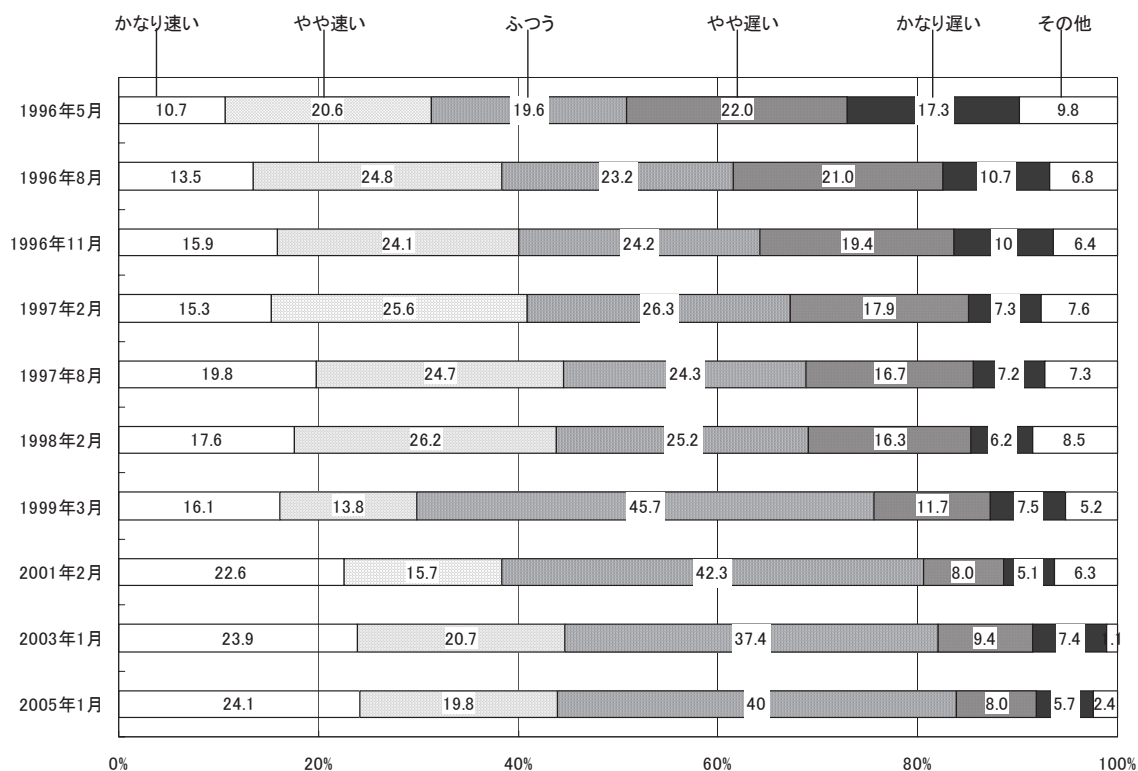


図1-16 まちの復興速度感

(注1) 今回調査と同様の項目を質問した神戸市の「市政アドバイザー復興定期便」(第1回:1996年5月、第2回:1996年8月、第3回:1996年11月、第4回:1997年2月、第5回:1997年8月、第6回:1998年2月)及び「震災後の居住地の変化と暮らしの実情に関する調査」((財)阪神・淡路大震災記念協会(1993年3月))の結果もあわせて分析の参考とした。(これらの調査とは、調査対象者が異なっており、一概に論じることはできないが、全体の傾向を考察するための参考とした。)

②夜の明るさ

- ・時間の経過とともに、「震災前より明るくなった」と感じている人の割合が増えている。

地域の夜の明るさをどのように感じているかについて、図1-17に示した。

図2は、左から順に「震災前より明るくなった」「震災前の状態に戻った」「震災の影響はなかった」「震災前より暗くなった」「その他」である。時間の経過とともに、震災前より明るくなったと感じている人が漸増している。

「震災前より暗くなった」と感じている人は、震災直後の1996年5月には全体の27.1%であったが、2005年調査時点では9.8%まで減少した。(注2)注1と同様。

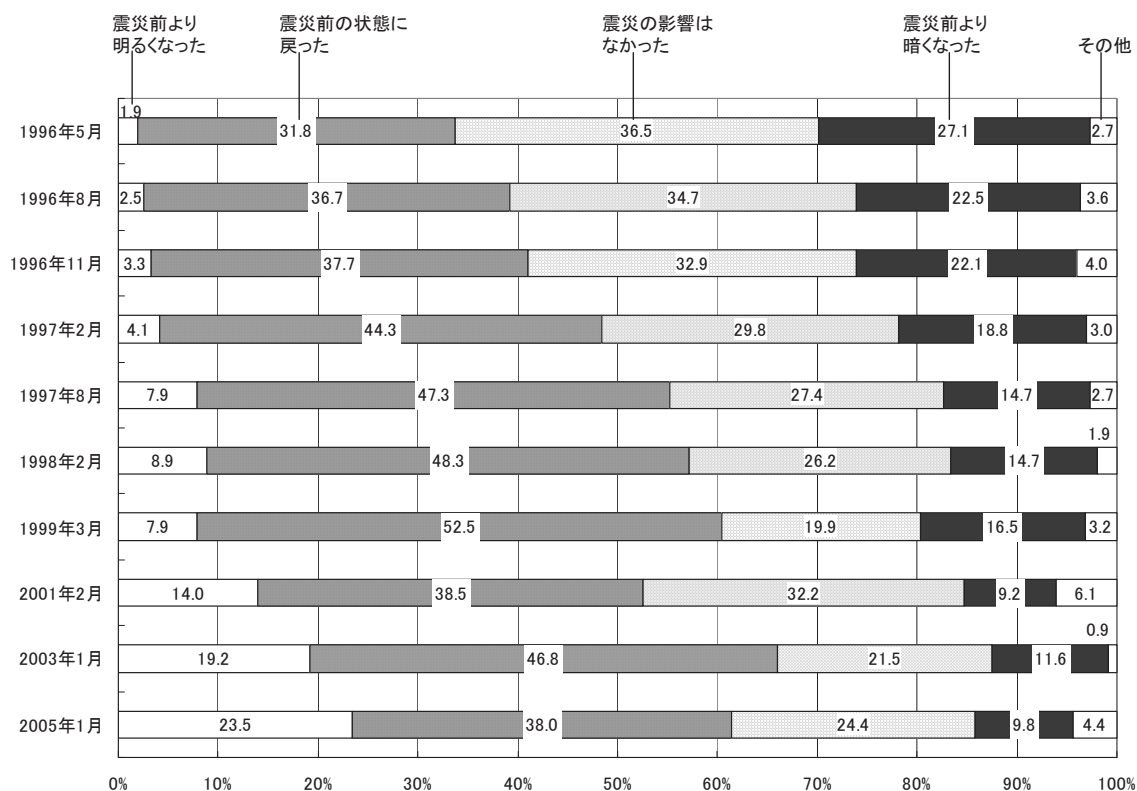


図1-17 夜の明るさ

③地域別復興イメージ

- ・「まちの復興が遅い」との回答が全体平均より多いのは、兵庫区、淡路島、長田区、須磨区、灘区、中央区だった。
- ・「震災前より暗くなった」との回答が全体平均より多いのは、淡路島、中央区、須磨区、長田区、兵庫区だった。

地域によって、まちの復興イメージに差異があるかどうか注目した。

図 1-18 は、地域の「復興が遅い」(=「やや遅い」+「かなり遅い」と回答した人の割合、地域の夜の明るさが「震災前より暗くなった」と回答した人の割合をあわせて図示したものである。

「復興が遅い」との回答が全体平均(13.7%)より多いのは、兵庫区(34.9%)、淡路島(34.6%)、長田区(32.7%)、須磨区(22.2%)、灘区(15.4%)、中央区(14.6%)であった。

「震災前より暗くなった」との回答が全体平均(9.8%)より多いのは、淡路島(36.0%)、中央区(27.1%)、須磨区(19.0%)、長田区(18.2%)、兵庫区(11.4%)であった。

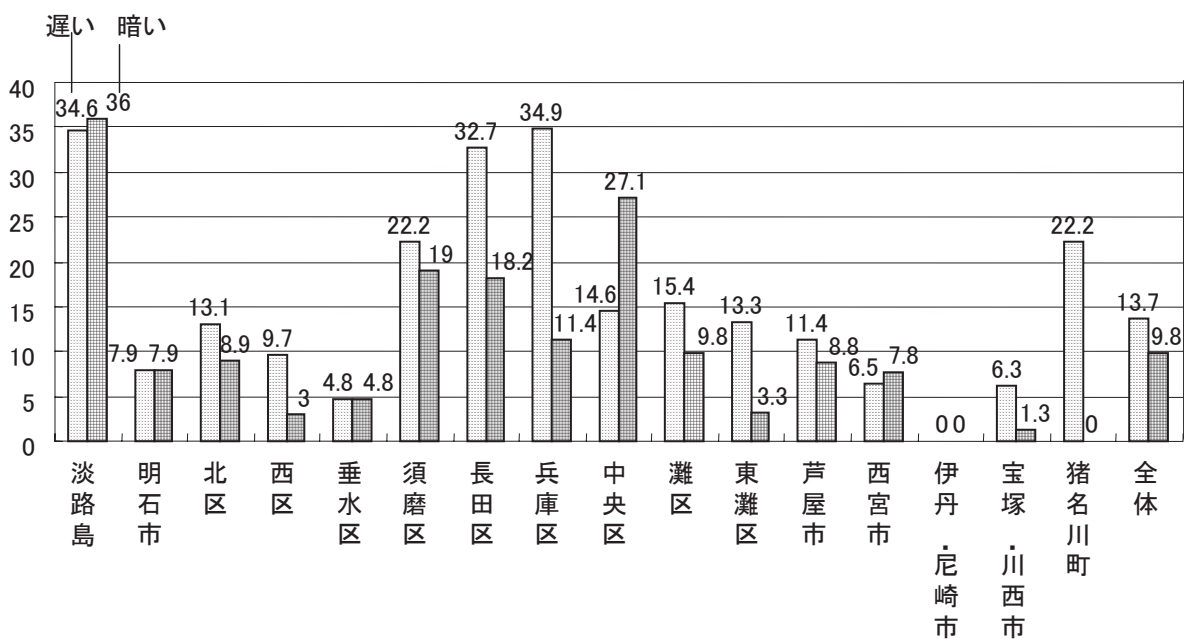


図 1-18 地域別の復興停滞感